

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 204人

② 数学 205人

③ 英語 204人

5 留意事項

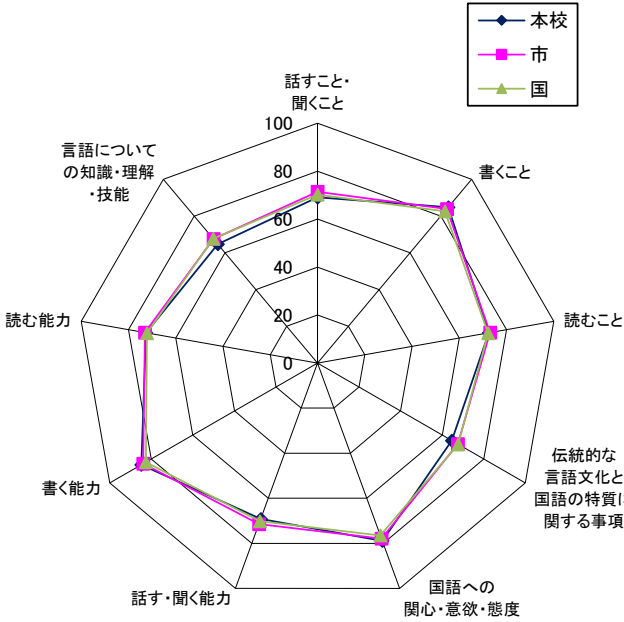
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.1	71.4	70.2
	書くこと	84.8	83.9	82.6
	読むこと	72.5	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.7	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	78.9	77.9	76.5
	話す・聞く能力	69.1	71.4	70.2
	書く能力	84.8	83.9	82.6
	読む能力	72.5	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	64.7	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

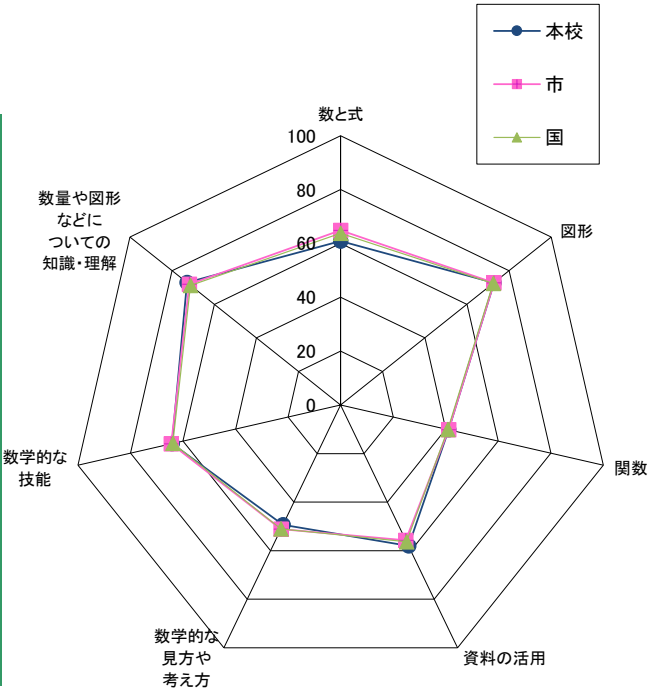
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの話題や方向を捉えて、自分の考えを書くという問題の正答率が高かった。 ●話し合いの役割を適切に説明したものを選ぶ問題の回答率が低かった。	・聞き取りテストを行い、話している側の意図や要点を聞き取る力を養いたい。聞き取った内容をもとに、自分の意見を書くことができるような課題にも取り組むようにする。聞き手を想定した資料の選択や、表現の工夫を意識してスピーチをする機会を多く設けていく。さらに、相互評価することによって、実際にどのような効果を生んだのかを振り返る機会を同時に設けていく。
書くこと	○伝えたい事柄について根拠を明確にして書く問題が、市の平均正答率よりも約5%高かった。 ●書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題の正答率が低かった。	・意見文を書く指導のなかで、語彙を適切に選べるように指導していきたい。また、語彙力を向上させるために、普段からの読書も大切であることを認識させていく。明確な反対意見や説得力の高い根拠を挙げることによって、読み手を納得させるような文章を書く活動を増やしていく。
読むこと	○文章の展開に即して次情報を整理し、内容を捉える問題の正答率が高かった。 ●文章に表れているものの見方や考え方について、自分の意見をもつ問題の正答率が低かった。	・書くことの分野や読むことの分野では、内容を捉える部分の正答率が低い。文章の要点が捉えられるように多くの問題を解くようにしていく。接続表現などに着目し、要点をまとめながら読むことによって、文章を論理的に読む力を身に付けさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○表現の仕方を理解する問題の無回答率が低かった。 ●封筒の書き方を理解して書く問題の正答率が低かった。	・国語に関する知識を補うために、今回出題された封筒の書き方だけでなく、作文用紙の書き方なども改めて確認していく。古典の授業で様々な作品に触れているが、どのような分野の作品であるか、きちんと学ばせる必要がある。また、普段書いている文字の種類を把握していない生徒もいるので、書写の授業においてもしっかりと文字の種類について学ばせていく。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	60.9	64.9	63.8
	図形	72.8	72.8	72.4
	関数	41.1	41.1	40.8
	資料の活用	58.0	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	49.3	51.1	51.0
	数学的な技能	64.2	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	72.9	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

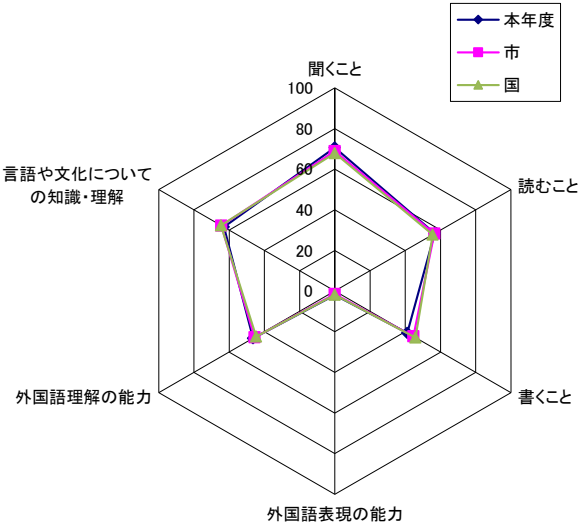
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」問題では、国や県の平均を上回っている。 ●「数の集合と四則計算の可能性についての理解や、総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる」問題では、国や全国の平均を大きく下回っている。	・数と式の分野で、計算や簡単な方程式を解くことはできるが何のためにその操作を行っているかの理解が浅いので、式の変形をする際にはなんのためにやっているのかなどに注目させるように指導を工夫する。
図形	○「平行移動の意味を理解している」問題や、「反例の意味を理解している」問題の正答率では、国や県の平均を上回っている。 ●「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」問題の正答率が、国や県の平均を下回っている。	・図形の分野で、平行移動、反例などの言葉の意味を理解することはできるが、三角形の合同の証明において図と条件を正しく関連付けることが苦手なようであるので、授業で折に触れ丁寧に取り上げて、学び直しをさせていく。
関数	○「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」問題の正答率は、国平均・県平均を上回っている。 ○「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」問題の正答率は、県平均を上回っている。 ●「反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができる」問題では、正答率が国平均・県平均より下回っている。	・関数に関する基本的な知識・理解や技能に関する事柄を授業で繰り返し取り上げ定着させたい。また、式・グラフ・表を関連づけた問題が苦手であるようなので、折に触れ取り上げて、学び直しをさせていく。 ・事象を数学的に解釈し、説明するような問題も関数の単元の中だけでなく、計画的に取り組んでいく。
資料の活用	○「相対度数を求めること」「確率を求めること」など数学的な技能を問う問題は全国・市平均を上回った。 ●資料の傾向を捉え、数学的な表現を用いて説明することの正答率が全国・市平均を下回った。また、割合の考えを用いる問題に関しては、正答率が全国・市平均を下回った。	・割合に関する問題を復習し、基本的な内容を理解できる力が身に付くような繰り返し指導する。 ・資料を活用するような場面では、必要な情報を適切に読み取る力が身に付くよう、積極的に説明するような場면을授業で取り上げて指導していく。

宇都宮市立横川中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	70.6	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	56.7	56.5	55.6
	書くこと	41.1	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	2.0	1.5	1.8
	外国語理解の能力	46.5	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	63.0	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○設問1の(1),(2)のような1文の問題では正答率が高い。また、設問1のように絵のある問題、または選択肢のある問題については正答率が上がる傾向が見られる。 ●設問1のように絵のある問題でも、会話形式になると会話の流れとしての全体像がイメージできず、やや正答率が下がる。また、設問4のような聞いた内容に対して、回答を書くという問題になると、無回答の生徒が約40%に上る。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・現在の英語教育ではALTとのティーム・ティーチングが組まれ、昔に比べれば会話を行う能力が身についていると思われがちだが、実際にはALTの授業は2週間に1度程度であり、十分な時間を確保できているとは言い難いところがある。授業ではデジタル教科書を使用し、ネイティブの発音を聞く機会は増えてはいるものの、教科書や文法事項の学習に時間を割かれ、会話を継続する能力が身につけてはいない。聞くことの課題としては、間違えやすい発音などを聞き分ける活動を取り入れたり、どのような会話が行われているのかなどを聞きながら要点を文章で表す活動などを行う授業を展開していく。
話すこと		
読むこと	○市・県ともに上回っている。日常的な話題についての文を読み空欄に当てはまる単語を選ぶ問題では、県の平均を7.4%上回っている。 ●まとまりのある文章を読みあらすじを理解する問題では、県の平均を6.2%下回っており、苦手としている生徒が多かった。	・文章全体の内容を捉えることができるようになるために、ある程度まとまった文章を読む活動をより多く取り入れ、要約する練習を重ねる。また、文章を多く読むことで、読解に必要な文法や単語・表現等を身に付けさせる。
書くこと	○一般動詞の3人称単数現在時制の疑問文を書く問題では、県の平均を2.7ポイント上回っている。また、与えられた情報に基づいて3単現の肯定文を書く問題では、県の平均を0.4ポイント上回っている。 ●一方、同じく3単現の肯定文を書く問いにおいて、違う情報の問題では、県の平均を13.9ポイントも下回っている。同様な問題で、3単元の否定文についても、県の平均を3.8ポイント下回っている。	・与えられた情報や条件について、正確に英文を書く練習が必要である。英文を書く際に、必要な単語やイディオムを知っていること、正確に書けることも大切である。授業で、何度も紹介し、自然に定着させるとともに、それを使った書く活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習について
○「生徒の間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、肯定的回答が79.7%で県平均を上回った。ここ数年、各教科で積極的に話し合い活動を取り入れている成果と思われる。
○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の肯定的回答が84.5%で、県や国の肯定的回答より、上回っている。学習活動の中で、思考力・判断力・表現力等の育成のための言語活動に必要な、学びに向かう学級の力の素地が培われていると思われる。
●「家で自分で計画を立てて勉強しているか」という問いに対して肯定的回答が58.9%で、県や全国の平均を少々上回った。各学級でテスト前や長期休業前等に計画を立ててきた成果と思われる。しかし、普段の学習では約4割の生徒が計画を立てずに学習している現状があるので、今後普段の学習についても計画的に勉強できるよう指導していく。
●「解答時間は十分でしたか」の国語と数学について肯定的回答が、全国や県の肯定的回答よりも下回っている。授業の中で、解答時間を設定するなど、生徒が意識するような授業の工夫をしていく。
生活について
○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答の生徒が全国や県の平均を上回っている。これは、教師と生徒との人間関係が良好であり、教師の自己肯定感を大切にしていける指導の成果と思われる。
○「家の人と学校での出来事について話をしますか」という問いに対して肯定的回答が県平均より4.9ポイント、全国平均より8.6ポイント上回った。コミュニケーションがとれている家庭が多いと思われる。
●「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに対して肯定的回答が去年は82.5%という高い値であったが、今年は78.2%と下がった。受験を控えて自己肯定感が低くなってしまった生徒が増えたと考えられる。家庭と学校で協力しながら、自分のよいところに気づかせていくような指導をしていく。

宇都宮市立横川中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	国語においては、1領域2観点で国平均・市平均を上回っている。 数学においては、3領域1観点で国平均・市平均を上回っている。 英語においては、2領域2観点で国平均・市平均を上回っている。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	国語においては、「書くこと」の領域が、国平均・市平均を上回っている。数学においては、「図形」「関数」「資料の整理」の領域で国平均・市平均を上回っている。英語においては、「聞くこと」「読むこと」の領域で国平均・市平均を上回っている。 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話しの組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」や「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定的回答が国・県平均を上回っている。
家庭学習の充実	各学年で、自主学習ノートを使用して、自主学習を毎日行うように指導を行っている。また、学年により基礎学力テストを行うための課題を提示し、家庭学習で取り組むよう指導している。	「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答が、58.9%で、国・県平均を上回っている。 「普段（月曜日から金曜日まで）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」で、2時間以上と回答している生徒が、37.2%で、国平均・県平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科の領域・観点において、半分近く的项目が県平均・市平均を下回っている。	基礎的・基本的事項の定着	・各教科で小テスト等を行い、細かく確認させていく。 ・各教科で授業の中で復習の時間をとる。 ・放課後学習相談では、外部講師を招いて、幅広く学習支援を充実させる。
1日当たりの家庭学習の時間が、市のスタンダードダイアリーに示されている学習時間の目安すである150分（2時間以上という回答）が37.2%である。	家庭学習の充実	・先を見据えて、各教科で自分に必要な学習内容を考えさせ、テスト前だけでなく普段の家庭学習も計画を立てさせる。